



2022年 (令和4年)
9月号 (No. 928)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目次

葛城経塚調査を回顧する ―「全国山岳古道調査」に寄せて―	1
高頭仁兵衛翁肖像修復募金事業の報告 ～第65回高頭祭を終えて～	5
第6回「山の日」全国大会 やまがた2022が開催	6
追悼 登山文化の時代考証人、近藤信行さん	8
連載 ■ ご当地アルプス登山案内	
17 田原アルプス	9
18 各務原アルプス	10
東西南北	12
活動報告	13
東京多摩支部／自然保護委員会／ 山の自然学研究会	
支部だより 越後支部	15
新入会員	17
図書受入報告	17
会務報告	18
ルーム日誌	18
会員異動	18
INFORMATION	18
編集後記	19

▶ 日本山岳会事務局 (含図書室) 取扱時間
月・火・木 10～20時
水・金 13～20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10～18時

葛城経塚調査を回顧する ―「全国山岳古道調査」に寄せて

聖護院門跡 門主 宮城泰年

現在、関西支部が調査中の「葛城修験の道」は、和泉山脈と金剛山地にまたがる112kmの道。衰退していたこの道を戦後に再興させた中心人物、宮城泰年門主に特別寄稿として葛城二十八宿探査の思い出を綴り、葛城修験の歴史上欠かせない文献『葛嶺雜記』とその著者・智航(佛海)上人について解説していただいた。

60年前、最初の調査行

聖護院の毎年春3日間の葛城修行は、戦後において序品経塚友ヶ島行場・化城嶮品第七粉河中津川採灯大護摩供・金剛山如来神力品第二十一、石寺常不輕菩薩品二十の4経塚を巡る定番であった。

しかし、昭和34(1959)年、27歳の正月に、智航こと佛海の著『葛嶺雜記』を書庫に見つけた。この出会いにより、明治の修験宗魔

止令以前の経塚の所在を確認したい思いに駆られた。以下60年前、最初の経塚調査の記録をひもどく。

相棒は大学在学中のTのみ、当時は装備のすべてが重い。テントはキャンバス地で支柱は木製、寝袋は小型の布団のごとくである。食料も米、つくだ煮、味噌、調味料などで、野菜は現地調達の予定だった。担ぐザックは1人30kgを超えた。



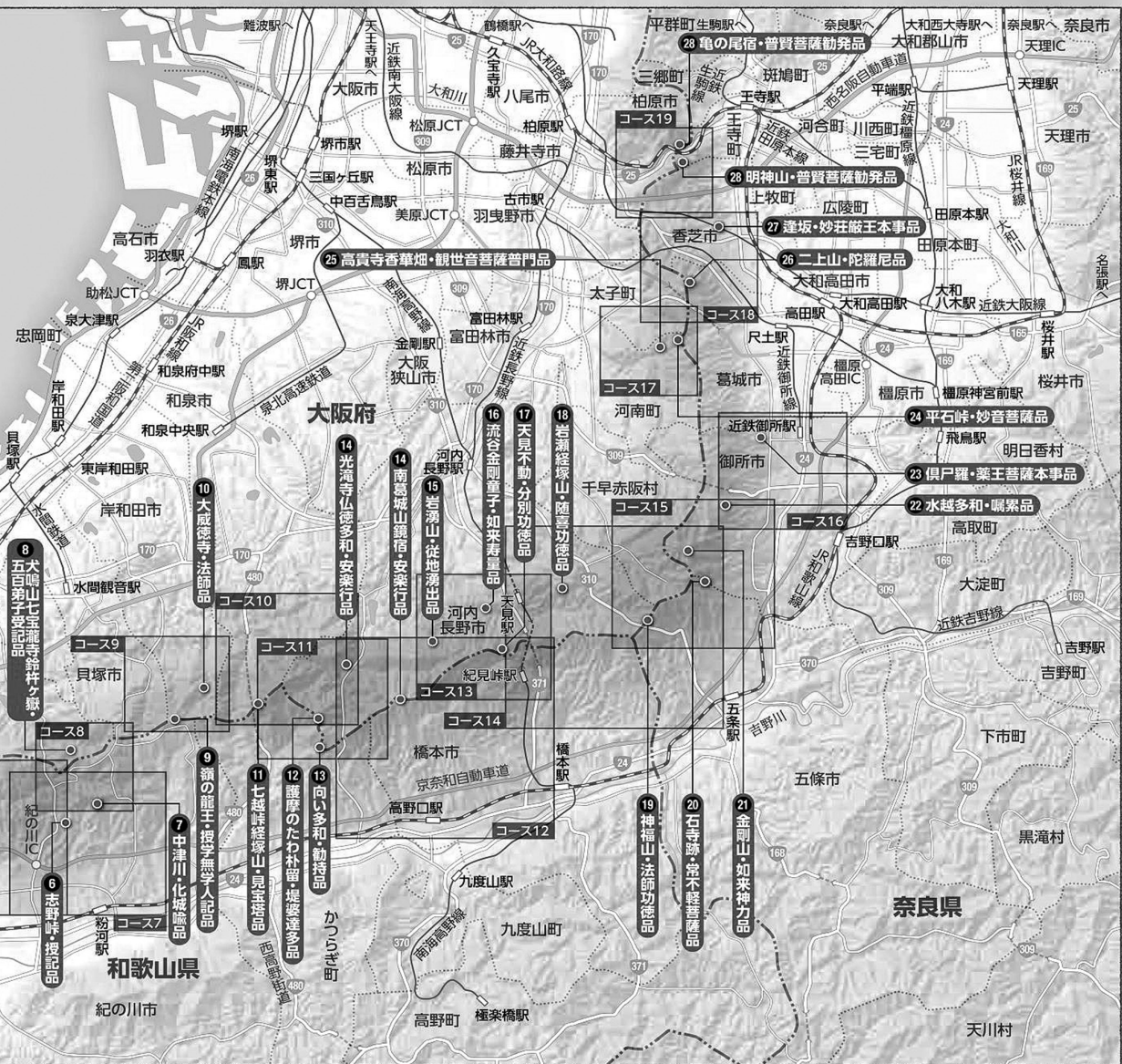
経塚調査中の若き日の宮城泰年師(左)。御所市茅原の吉祥草寺にて

正月に思い立つて、その春3月22日早朝、河内かたがみ駅を出発。亀瀬岩・明神山・逢坂・二上山・竹内峠・高貴寺・平石峠・御所吉祥草寺のコースで5つの経塚を確認した。ここは里の中にある山、経塚であつて、道が輻輳してその

選択一つ間違うと意外と時間を要し、雨にたたられたこともあり寺に着いたのは20時を過ぎていた。

23日は櫛羅へ。第二十三薬王菩薩本事品は、写真に見るごとくいかにも、という風景だが、今は開発の結果葛城の山は見えず、住宅地の塀にもたれかかるような形になっている。ここを振り出しに一言主神社を経て金剛山へ。増部落で火事を見物することになり、招かれてUさん宅で昼食。関屋部落では村史を見て、古老の話聞くという交流を経験して、山頂には15時過ぎであった。

第二十一如来神力品経塚は消滅し、代わりに文殊窟を拝したが、いつかは古記の通り三角点に復興を……と語り、山主・葛城貢氏の勧めを辞退しテントを張ったのだ



が、夜は冷えてテント内でマイナス1度となり、後悔することしきり（経塚は如来神力品一字一石写経で、昭和46（1971）年に三角点へ復興した）。

翌24日は夜露で重くなったテントにあえぎ、しかも霰は雪に変わり、低山を甘く見るのではないと自然に諭されながら、尾根でのテントをあきらめ、法師功德品第十九を経て東の行者より大沢寺へと下山。突然の来訪者にもかかわらず、今は亡き尾来夫妻のご厚意で一宿一飯。「お風呂入るんだったら、ご自分で沸かしなさい」と、五右衛門風呂に薪をくべたことなど懐かしい。

6時過ぎ五条駅初発の和歌山行き列車に乗るため、25日は午前3時30分起床出発。南海高野線の天見に7時下車、里の人は簡単に砥石谷を教えてくれたが、分別功德品第十七を探し当てたのは、迷い迷って12時。昔人の苦勞を察したことであつた。流谷十六の経塚を経てさらに岩湧山（いわわき）に向かう道で再び方角を失い、20時になつてから見つけた工事小屋に潜り込んだ。この1日は陸測5万分の1図を読み切れなかったという失敗で、己

葛城修験

全体マップ

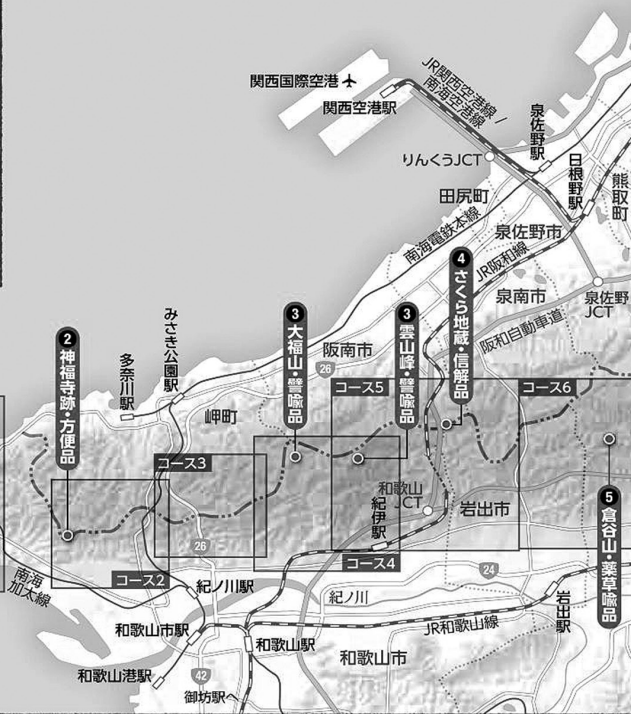
紀伊半島全図



紀伊水道

拡大図

大阪湾



の力不足を痛感したことであった。快晴の26日は岩湧寺から蔵王峠を経て、第十四安樂行品経塚の所在は一本杉か光瀧寺かと議論しながら、17時過ぎに勸持品第十三経塚近くの野小屋に入った。土筆や露の臺などを摘んでの食事、差し込む月光の中で自然を堪能したが、体力は限界だった。

Tは荷重で腕が上がらず、私は脛が下がり、これ以上の無理はせぬこととして、粉河の知人宅に送っていただいた後半の食料などを引き取って帰京した。

時には胡散臭く思われただろうが、道を聞いても親切で、「風呂入りにおいて」「飯作ってあげるから」など多くの人情に触れることのできた時代であったと思う。

以後、折に触れて単独で葛城の法華経経塚や周辺遺跡を調べて山に入った回数は数え切れず、60年以上経った今も続いている。現に今年になってから、貝塚市蕎原の山中で『葛嶺雜記』所載の護摩場を発見することがあった。これもまた、私と同年90歳の古老の教示によってである。智航もこうした人情に触れながら、江戸時代末期に『葛嶺雜記』を著したことであった

ろう。私も葛城修験百年後をも見据えて経験を語り、伝えるべく、歩いて行かねばならないと思う。

『葛嶺雜記』の著者・智航(佛海)について

『葛嶺雜記』は嘉永3(1850)年の刊行であるが、昭和54(1979)年に撰河泉地域史研究会の溝端常次郎氏が著者・智航についての考察を試みている。しかし、「不明の点が多く今後の研究に期待したい」と結んでいる。

私は『葛嶺雜記』の序文などから智航は本山派の行者ではないかと推測していたが、偶々2006年に聖護院所蔵の記録誌『錦森秘鑑』



俱尸羅葉王菩薩本事品(第二十三経塚)

を読む機会があり、その印影や署名が『雜記』と一致し、「阿遮羅院」「佛海」と名乗っていることを発見し、以後、古文書を中心に佛海の足跡を追っている。

佛海は寛政5(1793)年、今の泉南市樽井の又野新助の倅として生まれ、18歳の時、犬鳴山隆栄の弟子として修験の世界に入り、21歳で将来を嘱目され、師より俱利伽羅竜王を本尊とするお厨子を付属された。25歳から約10年かけて役行者を中心とする修験関係の版木を専心購入し、38歳で聖護院の学者「等空」と校合して『遺徳伝付録』を開版している。

46歳の時、聖護院宮雄仁親王より葛城全山の調査を委嘱され、以後、専心したのが二十八経塚をはじめとする葛城の霊域調査であった。

56歳で聖護院御内僧として親王に従い役行者一五〇年遠忌葛城入峰に随行、調査の結果を活かして『錦森秘鑑』を書し、57歳の嘉永3年に『葛嶺雜記』が篤志家の援助を得て刊行された。

以後、化城喻品第七経塚縁故の中津川行者堂に住み、院家である播州伽耶院の管理取締り方を務め

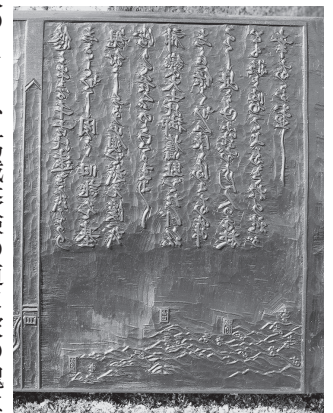
ながら、幕府はじめ地元の御祈禱行一千日などを通じて中津川の永世維持興隆を念願したが、幕末の混乱の故か、その志は遂げられなかった。

明治維新となって76歳、「寺社奉行は社寺方と変わり、神道の光り強く寺院はお添え物のごとく……」と慨嘆し、彼の修験興隆の夢は断たれた。

終生の事業として、『葛嶺雜記』はじめ集められた版木は明治2(1869)年に、すべて聖護院に納められて現存している。『役行者遺徳伝付録』『役行者靈験記』『役行者御一代記』『胎嶺渡御譜』『山伏峰人由来』『神變大菩薩縁起絵抄』『富士大縁起及行者旧蹟記』『役行者御制戒』『役行者縁起』である。

明治3年正月、喜寿を迎えたが老健であるとの便りが最後で、以後の消息は不明である。

聖護院宮家解体、修験宗廃止、寺領上知などで聖護院は混乱し、記録が明治6年まで途絶え、その間に佛海は死去したと思われる。近年、墓地を調査したが、中津川はじめ縁故の地いづれからもその痕跡はつかめていない。しかしなが



聖護院に所蔵されている智航＝佛海上人が著した『葛嶺雜記』の版木

ら、葛城修験の道に彼の魂は生きていると思う。彼の地である中津川で、令和7年に本山修験宗聖護院の伝統法儀「葛城灌頂」が行なわれるのは、大きな供養だ。

佛海最後の消息から150年、『葛城修験』の道は令和2年度に日本遺産に登録された。葛城修験日本遺産活用推進協議会が、遺産の登録資料として『葛嶺雜記』を江戸時代のガイドブックとして取り上げていることは、佛海の業績の証として誠に嬉しいことである。

和歌山・大阪・奈良の3府県にまたがる東西112kmの山脈を、人々がたどる葛城の道は伝統を保持しながら、修行、登山、観光、地域活性化など種々の目的で新しい光を当てられた。私の60年に及ぶ葛城経塚調査が、葛城修験文化の伝承の一助になれば望外の喜びである。

REPORT

高頭仁兵衛翁寿像修復募金事業の報告
（第65回高頭祭を終えて）

越後支部長 桐生恒治

日本山岳会創設発起人で、第二代会長を務めた越後・長岡出身の高頭仁兵衛翁は、13歳の夏、担任の大平晟先生（日本山岳会3番目の名誉会員）に引率されて弥彦山（634m）に登り、登山への薫陶を受けたことが原点とされている。越後支部は、1950年に翁の寿像をその弥彦山頂に建立したが、60年、弥彦神社奥の院の増改築のため現在の大平園地に移設した。さらに、寿像建立70周年と移設60周年の節目を迎えた2020



写真① 寿像修復工事竣工のお祝い

年12月に、「写真でみる高頭祭のあゆみ」を発行した。

これを契機に長年、厳しい自然環境に曝されて経年劣化が著しかった寿像を、全面リニューアルする修復工事を計画した。「高頭仁兵衛翁寿像碑修復実行委員会」を立ち上げて募金を開始したところ、越後支部会員・会友94名、全国会員21名と7支部、1個人・2山岳団体・2法人を含め総額155万8円ものご厚志を頂戴したが、以下に募金による修復工事と周辺整



写真② 新設した道標（右）と地図を張り替えた案内板

備の事業内容を報告する。

写真①は、昨年の高頭祭で寿像修復工事を完了して、神社神官からお祓いしていただき竣工式を行った。写真②は、寿像設置場所

の弥彦大平園地登り口にステンレス製案内看板（写真右）を新設、既設登山道案内板（写真左）のトレッキング・マップ再編集に協力し、「日本山岳会高頭仁兵衛翁寿像」の位置を明記した地図に張り替えを行なった。写真③は、今年の高頭祭で、翁の功績や寿像建立の意義と経緯を説明した紹介看板を新規設置して、除幕式を行なった。

高頭祭は、毎年7月25日開催の越後支部伝統行事で、今年65回目となるが、日本の登山祭で上高地



写真③ 仁兵衛翁と寿像の説明看板の除幕式

ウェストン祭の76回に次ぐ伝統と実績がある。過去2年間、コロナ禍で縮小開催となり、弥彦山たいまつ登山祭は中止されたが、今年は両祭とも通常開催することができ、ジンクスどおり雨天中止のない高頭祭で、快晴好天に恵まれた。古野淳会長や橋本しをり副会長をはじめ同好会アルピニズムクラブ（神崎忠男代表）が、「越後集会」として北九州支部から青森支部まで全国有志三十余名が参じ、多数の越後支部会員や関係者を含め総勢約100名に近い参加者が集う、盛大な行事となった。全員で寿像に献花を行ない、お酒を好んだ高頭翁が最も愛飲したと思われる地酒「朝日山」を母校・長岡市立深沢小学校から寄贈され、柏澄子・常務理事ら女性陣から献酒していた。

古野会長から「高頭仁兵衛と日本山岳会」と題する記念講演があり、その後、弥彦本山奥の院に向かい新潟県登山祭の安全登山祈願に臨んだ。日本海に夕日が沈むころを目途にたいまつ登山祭が始まり、神社に御神火を届け、打ち上げ花火の中を市中行進する幻想的な行事を体験していただいた。

REPORT

第6回「山の日」全国大会
やまがた2022が開催

山岳環境への取り組みも紹介

8月10・11日、第6回「山の日」全国大会やまがた2022が開かれた。「山を想い、山を愛し、山と生きる。」樹氷輝く蔵王のやまがたから、未来へ」というテーマの下、10日には、蔵王山での記念登山やレセプションが、11日には、やまぎん県民ホールで記念式典や

トーク・イベントが行なわれた。

歓迎アトラクションの「花笠踊り」でにぎやかに幕を開けた催しは、山の日恒例の「山鐘」に始まり、小林政志・大会実行委員会副会長の開会宣言、務台俊介・超党派「山の日」議員連盟事務局長による、土砂災害へのお見舞いに始まる挨拶に続き、吉村美栄子・山形県知



山形県・吉村知事から沖縄県・照屋副知事に「山の日帽」が引き継がれた

事、佐藤孝弘・山形市長、横戸長兵衛・上市市長らが、歓迎の言葉として県の山や自然、観光の魅力を語った。俳優で「山の日アンバサダー」の小林綾子さんをナビゲーターに迎えてのメイン・アトラクションでは、山形交響楽団による生演奏の下、「山を想い、山を愛し、山と生きる」「山形の名山と守り人たち」として、地域で環境保全などに取り組む方々の活動の様子が映像で紹介され、「樹氷輝く蔵王を未来へ」「未来へのメッセージ」と題しての蔵王

第三小学校、蔵王第二中学校、山形中央高校の生徒たちによる発表へと続いた。

山形県合唱連盟による組曲「蔵王」「山はふるさと」の合唱の後のリレー・セレモニーでは、山形県の吉村知事から来夏の開催県、沖縄の照屋義実・副知事に「山の日帽」が引き継がれ、後半のトーク・イベントは小林綾子さん、飯澤政人さん（登山ガイド）、かほさん（登山Youtuber）らが登壇し、自身の登山との出会いや山の魅力を語った。冒頭からの挨拶や発表など全体を通じて、アオモリトドマツの立ち枯れが進む蔵王山での樹氷の再生に関わる話や、地域の方々の地道なボランティア活動のことなど、



交響楽団の生演奏の下、「山形の名山と守り人」として皆さんの活動が紹介された

山岳環境に対する取り組みの話題や、若者たちの活動が印象に残った。ホール前の広場では歓迎フェスティバルも開かれたが、展示・体験コーナーやご当地グルメ&特産品コーナーなどのブースが出展さ

れ、にぎわった。日本山岳会山形支部の皆さんも支部活動の企画展示を行なったが、以下、詳細を山形支部長の鈴木理夫さんに綴っていただく。

(文と写真Ⅱ山の日事業委員会委員長・久保田賢次)

山形支部の企画「学校から見える山」プレゼント

山形県で生まれ育ったら、誰もが山を見ながら日々を過ごすことになる。内陸部の盆地のみならず、日本海側の庄内平野でも、月山や



ブース展示に協力された山形支部の皆さん

鳥海山などの山が常に視野に入ってくる。山好きにとつて山形県は、とても恵まれた自然環境にあると言える。

2016年の「山の日」の制定にちなんで、山形支部は県内各地の山の鳥瞰図・展望図を継続的に作成し、「学校から見える山」と名付け、小学生にプレゼントすることで、地元の人と親しんでもらう活動を実践してきた。「山の日」全国大会の開催に当たり、今まで作成した鳥瞰図・展望図を一堂に展示し、山形の山を全国に紹介して、日



たくさんの展望図や鳥瞰図が展示された

本山岳会山形支部の広報活動を行なうことに決めた。

今まで作成した庄内・鶴岡地区「金峯山と母狩山」、山形・西部地区「月山と葉山」、寒河江市長岡山からの展望、最上地区「神室のやまなみ」、金山町上空から北方の山々、置賜地区「残雪の飯豊連峰」、庄内・酒田地区「イヌワシが見る鳥海山」など10点に加え、昨年作成した山形市郊外に位置する大岡山からの「朝日連峰、月山、葉山」展望図の拡大版を今回特別に作成し、展示の目玉とした。横幅

は2m40cmほどになる大作となり、ブースを訪れた方から、描かれた山がよく分かるかと好評を得ることができた。

展望図・鳥瞰図を作成する上で、様々な課題があった。イラストレーターの木山由紀子さんに描いていただいた絵を見ながら、地形図や文献と比較し、その確認作業に多くの時間を費やした。山の特定、山名の読み方や表記、標高の確認、その山名を記載するかしないかの判断、山以外の地名の記載のあり方等、相当の時間をかけて「学校から見える山」の歴代担当委員が取り組んできた。

そして、各会員の豊富な山の経験と造詣の深さが「学校から見える山」の展望図や解説文に結実していると言つてよい。なお、最大の苦労は展望図を作成し、配布する資金をどのように確保するかという点である。本部からの援助、スポンサーとなつていただいた企業等に改めて感謝申し上げたい。

今までの活動で県内の各地区の山はある程度網羅できたと云えるが、まだ残っている山域として、蔵王連峰や吾妻連峰も存在する。資金面の問題も抱えながらではあるが、「学校から見える山」の活動を継続する方向を模索しているところである。また、今回の経験を活かし、今後も様々な場所で展示をしていくことも、さらに検討していきたい。

(文Ⅱ山形支部長・鈴木理夫)

追

OBITUARY

悼



登山文化の時代考証人、 近藤信行さん

山本良三

2022年7月17日、作家・評論家として活躍した近藤信行さんが亡くなった。91歳、老衰であったという。18年、拙書『南アルプスからヒマラヤへ』を送付したときはすでに施設入居中で、面会も叶わなかった。

近藤さんは日本山岳界において、日本人と山との深いつながりを文化的展望の中で考えようとした人で、登山文化の普及と啓蒙に大



近藤信行(こんどう・のぶゆき)

会員番号4433

- 1931年 東京都江東区に生まれる
- 1955年 早大仏文科から同大大学院修士課程を修了。同年3月、中央公論社に入社
- 1956年 日本山岳会入会。紹介者は折井健一、深田久彌
- 1969年 中央公論社で文芸雑誌『海』を創刊、編集長に
- 1972年 日本山岳会理事に就任。のち常務理事や常任評議員、評議員などを歴任
- 1978年 『小島鳥水 山の風流使者伝』で大佛次郎賞を受賞
- 1987年 静岡大学皇冠峰遠征隊に参加
- 2022年7月17日 逝去、享年91

きな足跡を残した。今、手元に『近代登山の先駆者たち』という120ページ余の冊子がある。近藤さんの情熱と努力の編集になるもので、これは昭和48年12月、日本橋・丸善で行なわれた「小島鳥水・木暮理太郎・岡野金次郎 生誕百年記念展」の目録である。

この冊子を見れば、日本山岳会創立時の歴史や人物を彷彿とさせる内容に満ちており、歴史を知ろうとしない若い会員へ、復刻してプレゼントする意味は大いにあるように思う。その後の「小島鳥水全集」や「復刻日本の山岳名著」など

の出版事業も、近藤さんの情熱と知識があつて成功を収めたもの。

これまでに、JACで日本の登山文化の普及・啓蒙に偉大な貢献をされた先輩諸氏の中でも、松方三郎、三田幸夫、藤島敏男、小林義正、吉澤一郎、望月達夫、深田久彌、島田巽、山崎安治、近藤信行らは、山の文化活動を通して活躍された面々であった。

近藤さんは、早大フランス文学科の大学院を卒業後、中央公論社に入社。当時の同社は永井荷風や谷崎潤一郎、三島由紀夫ほか綺羅星のような大作家を持ち駒にする傑出した出版社だった(大森久雄氏)という。そのとき近藤さんは、深田久彌の名著『ヒマラヤ―山と人―』(昭和31年発行)の編集を担当した。あとがきで深田は「この本ができたのは近藤信行君のおかげであり、山が好きで山に熱心な同君の細かい心遣いがなかったら、これだけ行き届いた本にはならなかったろう。久々に私は本を作る楽しさを知った」と記している。

近藤さんの山登りの基本は、単に山登りを楽しむだけではなく、先人の足跡をたどるという発想が常にあり、山と人、山の文化への飽

くなき追求姿勢に現われていたのではないかと思う。常に登山史上の考証を意識していたと言える。

近藤さんは1978年、『小島鳥水 山の風流使者伝』(創文社)で、第5回大佛次郎賞を受賞した。近藤さんの著作には『深田久弥 その山と文学』、『安曇野のナチュラリスト 田淵行男』などあるが、初作を超える著書は見当たらない。また、近藤さんには今西錦司先生の発想と関連つけた「盆地からの発想」という優れたエッセイがある。源流は今西氏が第12代日本山岳会会長に就任し、近藤さんと私が理事として仕えたときに始まる。

そして、今西会長との夜の付き合いが始まり、近藤さんは行きつけのバーへ彼を誘った。そこは在京文人墨客の夜の社交場であったという。今西会長もその店と女将が気に入り、近藤さんと今西さんの度重なる自由な思考の交流がその発端であろう、と私は見ている。

今西錦司先生の逝去の際、マスコミは一斉に「巨星墜つ」と評してその死を悼んだ。その関連で言えば、登山文化の普及と啓蒙に多大な貢献をした近藤さんの死もまた「巨星墜つ」と言えるだろう。

連載■で当地アルプス登山案内17 田原アルプス

東海支部 志水龍雄

愛知県の南東部、渥美半島の付け根に位置する田原市の、市街地に近い場所にアウトドアのフィールドが広がる。赤石山脈の支脈で、光岳から南に続く中央構造線は、豊橋で西に向きを変え蔵王山、衣笠山につながり南端の山城となる。三河湾国定公園に指定される衣笠山を中心いくつかの山を抱える「田原アルプス」は、その中央に上池・下池を囲む散策路や、野球場・テニスコート・キャンプ場・売店・トイレなどの施設を持ち、駐車場



田原市郊外から田原アルプスの山並みを望む

も160台以上と豊富に用意されており、市民の憩いの場所になっている。滝頭公園を中央にして囲むように続く田原アルプスは、中心となる衣笠山(279m)をはじめ滝頭山(258m)、中西山、藤尾山(208m)、不動岳、赤松山(193m)、庄十山、稲荷山(68m)と続いている。

【コースガイド】

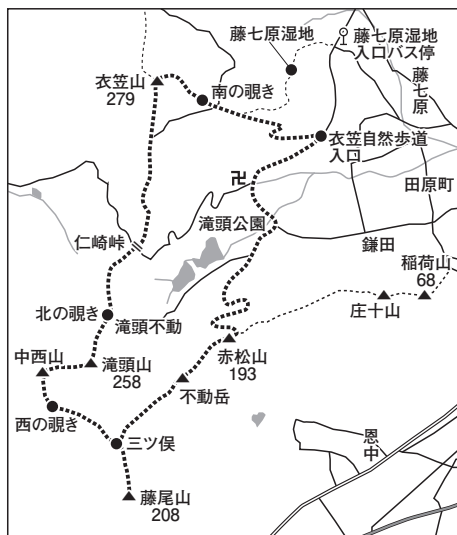
ここでは、滝頭公園の中央駐車場を起点として周回するコースを紹介する。広い駐車場があり、ここに車を止めて歩き出す。滝頭公園は3月下旬から4月上旬には、ソメイヨシノやヤマザクラを中心に約3000本もの桜並木の花が開花する。

公園から車道を北に歩き出すと浄蓮寺が左手に見えてくる。その先に「衣笠自然遊歩道入口」の看板がある。照樹林に覆われる遊歩道は広く、歩きやすい。途中、小衣笠の分岐に出会うので左へ、ジョギング・コースにもなっている道

を進む。行き止まりの林道が遊歩道の右に現われると、ここから衣笠山への最後の登りが始まる。シダの葉の茂る急な坂道を登っていくと、松尾岩が現われる。後ひと息登って衣笠山の山頂に着く。

山頂には二等三角点があり、岩場には田原山宮奥社が祀られている。山頂展望台からは、三河湾国定公園の内海と外海が良く見える。休憩を終えたら広く整備された衣笠自然遊歩道を仁崎峠に向かって下る。使用不能の東屋を過ぎ、さらに下って階段を降りると、仁崎峠に出会う。滝頭公園から三河湾の内海に延びる舗装された林道の峠脇には、数台駐車可能な広場があり、滝頭山へ向かう階段が、滝頭地藏尊の横から始まる。

ここからしばらく登り、滝頭不動尊と山頂への分岐点をまっすぐ進む。「ブランコの木」と書かれた標識に出会ったのち、もう少し歩くとオトコ坂・オンナ坂の分岐に出会う。オトコ坂は急な登山道を山頂に向かうルートだ。オンナ坂



に向かう登山道は緩やかで、途中、「恐竜の背」と呼ばれる、恐竜の背中を想像させる盛り上がりが出てくる場所で、樹木の間から渥美半島と外海の景観、半島に広がる街並みとともに眺められるビュー・ポイントだ。ここから山頂へ向かう尾根を少し登って滝頭山山頂に着く。奥ノ宮の跡地と見られる敷地跡があり、山頂は樹木に囲まれて展望はない。

この先は長興寺自然遊歩道に向かつて歩く。中西山は遊歩道沿いの緩い起伏の頂にある山で、標識が設置されていないれば行き過ぎてしまうような山だ。藤尾山への分岐点は、その先の木に小さく付けられた標識に沿って道を左に進



衣笠山から俯瞰した三河湾。対岸は蒲郡方面

む。「西の覗き」から渥美半島の大
山方向の景観が楽しめる。さらに
下り、ガードレールのある遊歩道
分岐に出会うと、標識に沿って右
方向へ歩く。

三ツ俣の分岐点を大きく下って、
登り返すと藤尾山の山頂に着く。
山頂の目印は道標の下に書かれた
「藤尾山」の表記だけだ。隣にはベ
ンチが置かれているが、草が辺り
を覆っていて休憩スペースはない。
山頂は南側が切り開かれており、
太平洋の広がりを楽しむことがで
きる。

不動岳へは三ツ俣まで戻り、標
識に沿って東に歩く。迷子尾根の
頭を過ぎるころからは衣笠自然遊

歩道となり、広く歩きやすい道に
なる。尾根の起伏を楽しむように
不動岳、赤松山の頂を通り過ぎて
扇原展望台の分岐点に着く。樹木
が育ち、大きくなっているため設
置された見晴台からは展望が望め
ない。まっすぐ下れば庄十山、稲
荷山に続く。車を置いた滝頭公園
の駐車場に戻るには、「くちなし
の道」を下ると良い。時間があれば、
藤七原湿地に立ち寄りたい。春に
はシデコブシの花が良い。

【コースタイム】 滝頭公園(10分)
衣笠自然遊歩道入口(45分)衣笠山
(30分)仁崎峠(40分)滝頭山(15分)
中西山(15分)三ツ俣(10分)藤尾山
(10分)三ツ俣(15分)不動岳(10分)
赤松山(10分)扇原展望台(20分)滝
頭公園

【交通アクセス】 〈車〉豊橋から国
道259号を40分で田原市滝頭公
園へ 〈公共交通〉豊橋駅から豊橋
鉄道渥美線に乗り35分で三河田原
駅。駅からバス10分で滝頭公園へ
【参考文献】 分県登山ガイド『愛
知県の山』(西山秀夫編著、山と
溪谷社) 愛知県田原市・渥美半
島観光ビューローのトレッキング
ガイド

<http://www.taharakankou.gr.jp>

連載■ご当地アルプス登山案内18 各務原アルプス

岐阜支部 東明裕

「各務原アルプス」の稜線は、岐阜
県各務原市の北側と関市の南側の
境界をほぼ東西に走っており(西
側の一部は岐阜市との境界となっ
ている)、関側では「関南アルプ
ス」の別名でも親しまれている。

山域の西端の伊吹の滝から坂祝
駅まで抜けるのが一般的な「アル
プス縦走路」である。300m台の
山々が連なり、行程距離17km、累
積標高1200mのなかなか歩き
甲斐のあるコースだ。山域のハイ
ライトである西の各務原権現山や、
東の明王山周辺を中心として人気
が高く、常ににぎわっている。

登山適期は春と秋で、冬もお勧
めだが行程が長いので、日没時間
を考慮し、コースを検討のこと。

【コースガイド】

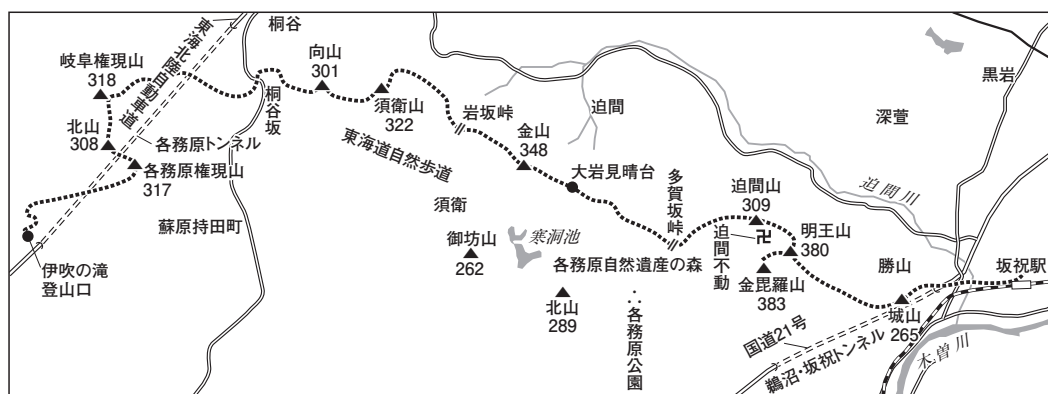
今回は西端の伊吹の滝から東端
の坂祝駅までの縦走路を紹介する。
行程が長いので、3つのパート
に分けて案内しよう。

【伊吹の滝から桐谷坂の峠】
伊吹の滝周辺の駐車場に停車し、

まずは各務原権現山(317m)を
目指す。各務原権現山は市民に愛
されるハイキングの山で、週末は
午前中に駐車場が満車になってし
まうため、なるべく早めの出発が
お勧め。権現山の登りは緩やかな
坂道で良く整備されており、迷う
ことはなからう。山頂直下から突
然、石段の急登となり、石段終わ
りの鳥居をくぐると山頂に到着。

山頂からの見晴らしはすばらし
く、晴天であれば御嶽山や中央ア
ルプス、恵那山の姿を、東・南側
には岐阜や名古屋の街並みと濃尾
平野、航空自衛隊岐阜基地を見渡
すことができる。東側にはこれか
ら進む縦走路終点の明王山の姿が
遙か遠くに見ることができる。

各務原権現山からは北山を経て
峠に下り、北側にそびえる兄弟山・
岐阜(芥見)権現山(318m)に向
かう。岐阜権現山は、YAMAP
の「道迷いしやすい登山道202
2」で第1位の不名誉な冠をいた
だいたが、山慣れていれば特に問
題はない。山頂からは桐谷坂の峠



へと向かう。桐谷峠では県道17号の横断があるが、交通量が多いので注意のこと。

【桐谷峠の峠から多賀坂峠】

この区間は向山(301m)、須衛山(322m)、岩坂峠(約180m)、金山(348m)、大岩見晴台、多賀坂峠(約210m)と、アップダウンが続く尾根の道である。ここに書かれている以外にも小さなピークが無数に連なっており、トレーニングには最適の区間だ。登山者も少なく、途中の山頂や見晴らし台からは各務原市と関市の街並みを見渡すことができるが、なかなか壮観だ。

【多賀坂峠から坂祝駅】

このエリアは、全体を通して山頂や登山道からの眺望がすばらしく、ハイカーに人気である。まずは309mの迫間山へ登る。時間があれば、稜線上から階段を南側に降りた迫間不動尊に立ち寄ることをお勧めする。本尊は独特の雰囲気のある岩窟に安置されており、一見の価値あり。また、3月と9月には大祭が執り行なわれ、山伏による火渡り神事が催される。迫間不動極楽茶屋では、飲み物や食事(ラーメンが美味しい)が得られ、山行終盤に向けての英気を養うことができる。

次の目的地、明王山山頂(380m)

0m)は広々としており、このルートの中でもひととき景観に優れている。整備された山頂からは360度の展望が広がり、恵那山や乗鞍岳、御嶽山が遠望できる。また、木曽川の流れや犬山から名古屋に続く濃尾平野を楽しみながら小休止するのが良からう。山頂は常にハイカーでにぎわっている。

明王山から15分ほど稜線を離れると、各務原アルプス最高峰の金比羅山(383m)となる。少し遠回りとなるが、最高地点なので立ち寄りたいところだ。

明王山から東に緩やかな尾根を進むと、城山(265m)の山頂に到着する。ここには猿啄城が復元されており、観光スポットとなっている。猿啄城の展望台からは、「日本ライン」と呼ばれる木曽川の峡谷を一望でき、人気のポイントとなっている。

城山からは30分ほどで下山口に到着できる。そこから道路を約1kmの歩きで坂祝駅に到着、長かった各務原アルプスも終点となる。

【コースタイム】伊吹の滝から桐谷峠の峠(約3時間)、桐谷峠の峠から多賀坂峠(約4時間)、多賀坂峠から坂祝駅(約3時間)



猿啄城から見下ろした日本ラインの流れ

【山行アドバイス】各務原アルプスはトレイル・ランニングのブームで有名になったため、長丁場の行程を楽しむためのルートである。体力や時間的な制約があり、ハイキングで楽しむのであれば、「各務原権現山・岐阜(芥見)権現山」エリア、または「迫間山・迫間不動尊・明王山」エリアだけに絞っても十分に楽しめる。

【入・下山口へのアクセス】伊吹の滝へは、車でのアクセスが望ましい。伊吹の滝に最も近い電車の駅はJR那加駅だが、伊吹の滝までは4kmの道程がある。下山地点の坂祝駅からはJR高山線で那加駅まで移動可能である。

東西南北

世界に広がる 野中至・千代子の行動

大森久雄

アメリカで出ている山の雑誌

「Alpinist」(季刊)の夏号78号に、

野中至・千代子の明治28(1895)

年の冬富士登頂と滞在の記録

が紹介されている。執筆はMartin

Hoodさん。フッドさんは、深田久

弥「日本百名山」の英訳者で、日本

の山岳界の情況に詳しい。

同記事は、野中夫妻の気象観測

での山頂滞在を説明したもので、

厳冬期の高山滞在という当時でも

世界的に異例の経験は、従来、英

文ではほとんど、あるいはまったく

紹介されていないと思われる。

この記事によって野中夫妻の業績

が広く世界に伝わることになった

わけで、たいへんによろこばしい。

同誌は本会図書室に毎号到着し

ているから、機会を見てぜひお読



「Alpinist」78号に紹介された野中夫妻

みになるのを勧めしたい。

なお、Martin Hoodさんに関し

ては、「会報」山の838号、同84

7号、および「山岳」第百十一年号

(2016年)に関係記事があるの

で参照されたい。

また、「Alpinist」誌掲載記事に

よれば、晴美フッド夫人の英訳に

よって、野中千代子の「芙蓉日記」

の英訳版も近く刊行になるという

これもまた喜ばしい。こうした同

氏夫妻による日本の山岳関係事象

の英語世界への紹介には、おおい

に感謝したい。

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

碌山美術館を次世代につなごう(後編) 碌山の芸術活動

古幡開太郎

彫刻家・荻原碌山は1879(明治12)年、東穂高村(現・安曇野市穂高)矢原の農家の5男として生まれた。碌山生家の向こう隣は、大王わさび農場を開墾する深澤家、そして、近隣白金には「中村屋」を開業する相馬愛蔵家があった。碌山19歳のとき、相馬愛蔵に嫁いできた良(のちに黒光)が持ってきた長尾奎太郎の油絵「亀戸風景」を見て心打たれ、のちに画家を目指すことになる。

99(明治32)年、碌山は相馬愛蔵や井口喜源治に紹介された明治女学校長・巖本善治を頼り上京、明治女学校内に寄宿して小山正太郎の不同舎で絵の勉強を始めた。1901(明治34)年、碌山は渡米してニューヨークに行く。フェアチャイルド家の学僕として働き2年後、その蓄えで渡仏、美術学校で絵を学ぶのだが蓄えが尽きて帰米する直前、ロダンの「考える人」に接し、その威厳に打たれ彫刻家になる決心をする。

06(明治39)年、再渡仏してアカ



碌山の作品が並ぶ美術館の内陣

デミール・ジュリアン彫刻部で彫刻を始める。このころ夏目漱石「三十日」の碌さんに共感し、号を「碌山」とした。友人の紹介でロダンの直接会うことができ、数回教えを請うている。翌年、碌山は日本に帰ることを決心し、イタリア、ギリシャ、エジプトを回って帰国、パリで制作した彫刻のうち「女の胴」と友人高村光太郎が奨めた「坑夫」の2点を持ち帰った。

帰国した碌山は新宿・角筈でパン屋「中村屋」を営む相馬愛蔵・黒光夫妻の近くにアトリエ「忘却庵」を建て、制作を始めた。しかし、19歳で出会った黒光への思いは捨てがたく、悶々として制作に没頭、

でき上がった「文覚」「デスペア」にその苦悩が見える。当時、碌山の彫刻は評価されなかったが、09（明治42）年の第3回文展に「北條虎吉像」と「労働者」が入選する成果があり、そのころから制作を始めた「女」が10（明治43）年に入り完成に近づいていた。3月、ニューヨーク時代からの親友・柳敬助のアトリエ落成の前夜、碌山は中村屋2階で血を吐き、翌4月22日早朝、黒光・戸張孤雁に看取られ亡くなった。碌山32歳、帰国後2年で制作した彫刻は10体だった。

碌山美術館は蝶・常念、大天井・燕などが連なる北アルプス山麓に広がる安曇野の象徴として多くの登山者が訪れている。また、碌山美術館は日本山岳会と不思議な縁があるように思う。年次晩餐会では新宿中村屋のJACマーク入りの月餅が並び、毎回買って帰った。あるとき常務理事を務められた故・西村政晃氏とお話する機会があり、氏が中村屋の菓子事業推進室長であることを知り、早速「相馬愛蔵黒光のあゆみ」（1968、中村屋）を送っていただいた。今も大切にしてお会いするたびにされた碌山の話を抱かしく思い出して

いる。また、小林政志・日本山岳会第25代会長は、株式会社中村屋の人事部長を経て、専務取締役を務められた。碌山の彫刻を保管展示されている中村屋サロン美術館館長もされ、碌山関係者としていつそう親しみを感じる。

筆者は現在、公益財団法人碌山美術館の理事として活動しているが、財団法人碌山美術館設立委員会役員であった祖父・秋夫、評議員であった父・攝良の後を追いつ、1996（平成8）年に幹事を委嘱されてから今日まで、碌山美術館

とともにある。

なお、碌山美術館を安曇野の資産として未来につなぐためのクラウド・ファンディング募集は、8月31日最終日を迎え、目標額700万円に対し、7000名以上の方々から2370万円を超える寄付をいただき成立しました。皆様からの温かいご支援に心から感謝し、碌山美術館の維持を図って参ります。ありがとうございました。（信濃支部会員、公益財団法人碌山美術館理事）

活動報告

日本山岳会の各委員会、同好会の活動報告です。

東京多摩支部／自然保護委員会

第10回 ニッ峠アツモリソウ保護活動報告

2011年にスタートしたこの活動は、第10回がコロナ禍のため2年間中止となり、今回やっと

3年ぶりに実現できた（東京多摩支部、自然保護委員会主催）。

6月19日（日）、電車組、車組に分かれた参加者13名（本部、埼玉支部より各1名含む）は、お昼ごろ頂上近くのニッ峠山荘に集結。昼食後、同山荘近くにある盗掘やシカの食害防護柵で囲まれた広い保

護区域内で同山荘の主、東京多摩支部会員の村光吉さんの案内により、まずは点在するアツモリソウとご対面。その可憐で風格のある美しさに、特に初参加（8名）の方は感激一入で、全回参加の老練たちにとっては孫に会うような浮き浮きした気分での成長ぶりに目を細める。毎年満開の時期に日程を組んでいたが、中村さんには感謝の気持ちでいっぱいである。アツモリソウの名前の由来は、花の姿を平敦盛の背負った母衣に見立てたそうである。昔は自生地がたくさんあったが、盗掘や長い



大株のアツモリソウ

間の気候変動などの環境の変化で今は絶滅危惧種になってしまいが、ごく限られた所でしか自生していない。保護活動にもいろいろあるが、我々はもっぱらアツモリソウの天敵であるテンニンソウの除去作業を担当している。日帰り組の3名は作業後、大急ぎで近くに自生するカモメランなどを観察したのち、往路と同じ御坂口へと下る。宿泊組は夕食後、中村さんの2代にわたる(父璋氏)保護活動の苦労話や、アツモリソウの増殖の仕組みなどについての講話を拝聴する。

アツモリソウの増殖には、各種気象条件のほかに、特定昆虫のマ

ルハナバチや、土壌には生育を手伝う共生菌(ラン菌)の存在が不可欠であり、これらのバランスが崩れるとうまく育たない。だから、根こそぎ持ち帰って鉢に移しても育つはずがないのだが……。高山植物は自生地で見るのがいちばん美しい!

2日目(20日)は早朝に山頂付近でほかの高山植物の観察を行ない、朝食後、のんびりと河口湖へ延びる府戸尾根を富士山を眺めながら下り、富士急の寿駅に下山した。

コロナ禍にもかかわらず、この活動の10回目という節目にふさわしい充実した時を過ごせた。この秋には、初めての試みとして、「種蒔き」にも参加できそうなのが分かり、次の10年へ向けての良いスタートにもなった。

(岡 義雄)

山の自然学研究会

上高地インタープリター活動に参加して

日本山岳会同好会の「山の自然学研究会」(以下「やま学研」)は、上高地において「インタープリター活動」を25年間続けている。野外

におけるインタープリター(翻訳者)とは、自然を「通訳」すること、と考えていた初心者の方の活動報告だ。上高地インタープリターの活動は、①ミニトークと②ガイドウォークの2つ。ミニトークは、アルペンホテル、温泉ホテル、西糸屋の3つのホテルで夕食後のひととき(1時間ほど)、宿泊者に対して自然解説を行なう。ガイドウォークは、西糸屋の前で参加者を募集し、河童橋から明神までを歩きながら自然を解説する。

8月1日、上高地公園活動ステーションに総勢4名が集まった。リーダーは代表の源原重行さんだ。

今回の活動には、やま学研のほか「山の自然学クラブ」などの協力を得て、森林インストラクターのSさん、樹木医のAさん、自然再生活動家のNさん、同じくICTを駆使して自然解説をされるKさんが順次加わり、充実した講師陣となった。複数の団体のメンバーが協力することにより、大きな成果を挙げることができた。

さてミニトークの感想だ。スタッフとしての私のミニトークにおける役割は、会場のセッティング、資料の配付、ガイドウォークの案内・告知、そのほかだ。講師の方々、のミニトークは、「上高地の植物」、

寄附金および助成金などの受入報告(8月まで)

寄附者など	受入金額など (単位千円)	寄附の目的、その他
(株)インパクト トレーディング	500	120周年記念事業 ヒマラヤキャンプ支援
スボルディング ジャパン(株)	500	120周年記念事業 ヒマラヤキャンプ支援
(株)ヨシキスポーツ	50	房総の山復興プロジェクト寄付金
フィールズ(有)	50	房総の山復興プロジェクト寄付金
(株)モンベル	50	房総の山復興プロジェクト寄付金
植草 勝久 様	10	房総の山復興プロジェクト寄付金
ならしの山の会	10	房総の山復興プロジェクト寄付金
茂原市山岳協会	10	房総の山復興プロジェクト寄付金
千葉工大山岳部 OB、OG会	10	房総の山復興プロジェクト寄付金
京成山岳部	10	房総の山復興プロジェクト寄付金
千葉岳連OB会	10	房総の山復興プロジェクト寄付金
日山協山岳共済会	100	房総の山復興プロジェクト寄付金
公益財団法人マエタテクノロジー・リサーチファンド	200	山形支部事業 「学校から見える山」支援
中谷 康司 会員	50	マナスル・ファストマウン ティング登山隊支援
松尾 みどり 会員	30	アマ・ダブラム登山隊支援
一般財団法人山の道	200	日本山岳会活動全般支援
(株)ゴールドウイン	1,000	120周年記念事業 ヒマラヤキャンプ支援



ガイドウォークで穂高岳連峰の解説をする

「木と樹に関する常識・非常識」「花と昆虫がつくる自然」「日本列島とウナギの深い関係」などと多彩で面白く、それぞれの専門分野の高度な知識を噛み砕いて、分かりやすく解説された。それは初学の私にとっても分かりやすく、楽しく聞くことができた。

翌朝のガイドウォークには、前夜のミニトークを聞いてくださった方々がたくさん来られた。午前9時に河童橋を出発。解説ポイントは①河童橋、②ケシヨウウナギ、③倒木更新、④ツルアジサイ、⑤キバナノヤマオダマキ、⑥ミヤマニワトコ、⑦キツリフネ、⑧ソバナ、⑨ハンゴンソウ、⑩クロカン

バ、⑪嘉門次小屋、⑫メタカラコウ、⑬ジャコウソウ、⑭ヤチトリカブト、となるだろうか。

参加者の皆さんも熱心に質問をされて楽しんでいった。私はというと、花の名前と特徴と場所を記録するのに精いっぱい、付いていくのがやつとのことだった。一方でインタープリターとしての源原さんの解説を聞くうちに、前述の「通訳」の認識の甘さを痛感することとなった。それは「通訳」の意味の深さについてだ。

花の名前と特徴を伝えることが「通訳」の意味と考えていた私が気づいたことは、花の名前や特徴に加え、その花がどのように生きているか、あるいは生きてきたか(進化)を語りつつ、自然の合理性と偉大さ、大切さを伝えることだった。

今回の活動は、参加された皆さんが交流を深め、初対面でありながら古くからの友人であるように打ち解け、そのことでほぼ計画どおりの活動ができて、自然の大切さを伝えることができた。つたない私を導いてくれた皆さん、朝夕のご飯と味噌汁を提供してくださった管理人の山田さんに敬意を表

し、深く感謝いたします。

今後の計画作成を進めるに当たり、会報「山」に記事を載せていただいたことは、これも大きな助け

支部

だより

越後支部

アルプスと海をつなぐ「梅海新道」開通50周年記念登山
朝日岳・犬ヶ岳・白鳥山縦走

2021年、梅海新道全線開通から50年を迎えたが、新型コロナウイルス感染症防止から、宿泊を伴う山行はできなかった。遅ればせながら本年8月4日(木)〜7日(日)、全線開通50周年を祝した梅海新道登山を実施した。梅海新道は、日本海の海拔0mから白鳥山、犬ヶ岳を経て朝日岳を結ぶ北アルプス最北部の縦走路。特に朝日岳と黒岩平の中間にある「アヤメ平」の名前の由来となったヒオウギアヤメなど、様々な高山植物が咲き誇り、北アルプ

になり、有効な取り組みとなりました。

(北九州支部・磯野文雄)

スの桃源郷と言われている。

8月4日(木)
新潟Ⅱ糸魚川Ⅱ根知集落へ岳修山荘(泊)

日本山岳会越後支部会員でもある梅海岳友会、靄本氏の山荘に集合し「梅海新道」のスライド鑑賞、魅力について懇談した。梅海新道は初めてのメンバーが3人おり、あの天空の縦走路が晴れることを期待し就寝。

8月5日(金)
岳修山荘Ⅱ親不知観光ホテルⅡ北又小屋7:05〜5合目9:30
イブリ山11:40〜朝日小屋(泊)14:45

5時前に親不知観光ホテル駐車場に向け出発。駐車場には予約し

全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとレポートします。



美しい池塘のある、黒岩平付近の湿原に行く

たジャンボ・タクシーがすでに待機していた。登山口の北又小屋に7時前に到着。朝食をとり、出発前の元気な笑顔を写真に収め、朝日小屋に向けて出発した。まずは北又川に架かる吊り橋を渡り、イブリ尾根に取付く。登山口は標高700m前後と涼しいが、ブナの原生林の急坂を汗だくになりながらイブリ山への各「山頂標識」を目指した登高となる。

7合目からは徒歩10分前後で「山頂標識」があり、予定時間にイブリ山に着くことができた。ここから少し下り、鎖場を過ぎるとようやく木道の斜面だ。両脇に花々が咲き、さらに進むと残雪に覆わ

れた夕日ヶ原に出た。雪溪の水でのどを潤す。夕日ヶ原からは草原地帯となり、群生のチングルマやムシトリスミレなど様々な花を見ることができた。ここから緩やかな斜面を登ると朝日平となる。木道の先に赤い三角屋根の朝日小屋があり、両脇には残雪と、疲れを忘れさせる風景となった。朝日小屋到着後、検温、受付を済ませ、私たちのみの広い部屋で寛ぐことができた。

8月6日(土)

朝日小屋5:30―朝日岳6:40
―アヤマ平9:00―黒岩平11:30―サワガニ山13:30―梅海山荘(泊)15:40

5時、外に出ると大きな山容の雪倉岳、白馬岳が朝日に照らされて眼前に大きくそびえていた。外はやや寒い。今日の歩行距離は長い。コロナの関係から朝食サービスはなし。出発前に女将さんと小屋前で記念写真を撮り、朝日岳山頂を目指す。途中には花々が咲き、背後には劔岳、大日岳、毛勝三山が見える。山頂から吹上のコルまでが雪田のある花街道だ。

吹上のコルから草原帯を進むと高層湿原の中にエメラルドグリー

ンの照葉の池が現われ、後方に白馬岳、雪倉岳がそびえる絶景であった。さらに進むと広い台地のザラ道となり、右側に長梅山の山頂看板が見えるが、ロープが張られて山頂に立つことはできなかった。ここから樹林帯の下りで、ルートを切り開いた先人の苦勞を知ることができた。眼下には桃源郷と言われるアヤマ平があり、木道沿いにヒオウギアヤマが名残り惜しうに咲いていた。またまた樹林帯を抜けて急斜面を降り、小川を渡るとベンチのある黒岩平であった。

小川の脇にはリュウキンカやチングルマが咲く気持ちの良い草原地帯で、お湯を沸かし美味しいコーヒータムとした。

梅海新道はまさに花々が咲き誇る天空の楽園だ。さらに木道を進むと池や沢の周囲は群生するチングルマ、ミヤマキンポウゲ、ハクサンフウロなどの花畑となっていた。この先の緩い傾斜を登ると黒岩山となり、さらに先のサワガニ山を確認して進むと登山道の崩落地の迂回路に出た。昨年、ハイマツ帯を切り開いた新しい道で、枝の上を歩くが通行できるのはありがたい。短い距離でも登山道を造

ることは難儀なことなのだ。先方には犬ヶ岳と赤い屋根の梅海山荘、左前方には初雪山が見える。この先のピークを越えれば水場と思っていたら、狭い草原帯の鞍部に「北俣ノ水場」の案内板があった。なんだ、これを登れば犬ヶ岳の山頂ではないか。水を補給し10分ほど登ると山頂であった。

記念写真を撮り、15時40分、梅海山荘へ到着した。今日も晴れて朝日岳や高妻山、戸隠山、黒姫山、海谷山塊を楽しむことができた。

8月7日(日)

梅海山荘6:00―菊石山8:00
―白鳥山10:10―坂田峠13:20
―日本海・親不知海岸16:20

最終日となった。今日も晴れ、朝食を済ませ6時出発する。スタートは長い下り坂で、鞍部から少し登ると狭い平坦な黄連山の小さな看板がある。菊石山直下の水場まで休憩なしで進むと、涼風が吹き抜ける心地よいブナ林の休憩地着。ここからアップダウンを繰り返して、登り切ると菊石山の山頂だった。皆でアンモナイトを探すが山頂付近にはなかった。

いよいよ最後の急坂を登ると下駒ヶ岳、白鳥山はもうすぐだ。白



梅池新道を完歩、日本海に到達

鳥山頂で記念写真を撮り、後は下
るのみ。シキ割りの水場で昼食と
し、急坂を慎重に降りると坂田峠
に出た。ここから尻高山、二本松
峠、入道山を越え、親不知観光ホ
テルに到着。さらに5分ほど階段
を降りると日本海であった。今ま
で深い山の中を歩き、目の前の海
にたどり着いて今回計画した梅海
新道完歩の実感が湧いてきた。
参加メンバー＝渡辺 茂、後藤
正弘、遠藤俊一、井口光利、佐
藤博、君清、井口礼子
(渡辺 茂)

図書受入報告(2022年7月～8月)

著 者	書 名	頁/サイズ	発 行 者	発行年	寄贈/購入別
草川啓三	関西発日帰り 海をながめる山歩き : 絶景を楽しむ	152p/21cm	ナカニシヤ出版	2022	出版社寄贈
佐藤聡史 (編)	心にしみる淡く透き通る風景 水彩の明星	95p/30cm	丸山晚霞記念館	2021	発行者寄贈
斉藤清明	今西錦司と自然 (日本の伝記 知のパイオニア)	176p/22cm	玉川大学出版部	2022	出版社寄贈
中川智康	ペルー・アンデス 記憶の断片 : 写真展 ペルー・アンデス フォト紀行2006 から	45p/21cm	中川智康(私家版)	2022	著者寄贈
樋口明雄	屋久島トワイライト	303p/19cm	山と溪谷社	2022	出版社寄贈
Piro Piro Piccolo	なつのやまのとり	112p/21cm	山と溪谷社	2022	出版社寄贈
西村武重	北海の狩猟者 : 罷撃ちと山釣りに明け暮れたある開拓者の記録(ヤマケイ文庫)	271p/15cm	山と溪谷社	2022	出版社寄贈
針葉樹会 (編)	一橋山岳会 針葉樹会報 (No.101~125)	/26cm	針葉樹会	2004-2012	発行者寄贈
針葉樹会 (編)	一橋山岳会 針葉樹会報 (No.126~150)	/26cm	針葉樹会	2013-2022	発行者寄贈
Jenny Paterson (ed.)	The Journal of the Mountain Club of South Africa 2021 (No.124)	166p/23cm	The Mountain Club of South Africa	2021	発行者寄贈

会務報告

■8月の理事会は夏休みのため休会でした

ルーム日誌 8月

- 2日 スケッチクラブ
3日 山岳古道PT
4日 改革事業推進委員会
6日 高尾の森づくりの会
9日 フォトクラブ
10日 山想倶楽部
17日 つくも会 休山会 かつばの会
18日 フォトクラブ
19日 自然保護委員会
20日 アルピニズムクラブ
23日 会報編集委員会 平日クラブ
24日 麗山会
25日 記念事業委員会 緑爽会
26日 記念事業委員会
29日 青年部
- 8月来室者 99名

会員異動

物故

山田一介(4348) 22・月日不明
賛田統重(6497) 22・8・8
国沢鎮雄(10151) 22・8・2
吉川明秀(11363) 22・8不明

I N F
O R M

インフォメーション

A T I
O N

◆一般および会員向け自然保護講演会

参加者募集のお知らせ

東京多摩支部自然保護委員会

演題【1】

NHK「ダーウィンが来た! 多摩川トライアングルの知られざる自然」

映像作家・平野伸明氏

講師 日時 10月25日(火) 18時30分

秋村貞文(11931) 22・8・12
永谷誠一(12909) 22・7・31
退会

穴田雪江(4756)

上杉雄二(8396) 関西

細井澄子(9344) 神奈川

今福克保(9615)

加賀要子(12558) 福井

林 順子(14292) 東海

左光大和(15001) 神奈川

渡辺詩織(16392)

連 俊樹(16528) 関西

演題【2】

奥多摩の自然を守ろう―東京都レンジャーの話―

講師 東京都レンジャー 滝澤憲

久氏

日時 10月29日(金) 18時30分

以下【1】、【2】共通

場所 立川市女性総合センター5F第3学習室

定員 各40名(先着)

参加費 各500円(資料代ほか)

申込み 〆 FAX に参加者全員の氏名、住所の明記をお願いいたします。

申込み先

【1】は10月20日(木)、【2】は10月25日(月)までに、日本山岳会東京多摩支部 自然保護委員会 河野悠二へ

TEL 042-544-4738

FAX 042-544-4738

Eメール kyuji@mwd.biglobe.ne.jp

*ご参加には「マスクの着用」をお願いいたします。

◆緑爽会講演会のお知らせ

緑爽会では以下のとおり講演会を開催します。住所・電話番号を明記の上、左記へお申込みください。

演題 「関東地方を取り囲む峠を歩く」

講師 大久根茂氏。埼玉県立「川の博物館」研究交流部長。

季刊『山の本』で「峠の履歴書」を連載中

日時 10月22日(土) 14時

会場 JR武蔵境駅北口スイング

ホール10階「スカイルーム」

1

定員 40名(事前申込み制)

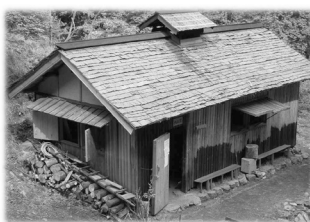
申込み先 荒井正人

申込み先 荒井正人

TEL 090-7719-7855
 mastonyama@gmail.com

◆「北山荘80年の歩み」展示会

北山の会



北山荘は、京都賀茂川の源流雲ヶ畑の谷深くにたたずむ80年の歴史を持つ山小屋です。昭和17年に京都府立第一中学校山岳部員によつて建てられ、戦後、洛北高校、鴨沂高校山岳部に引き継がれまし

年次晩餐会開催のお知らせ

12月3日に京王プラザホテルにおいて、年次晩餐会を開催します。新型コロナウイルスの影響により2年ぶりの開催となりますが、今回は展示会が行なわず、講演と晩餐会が中心となります。案内状および申込み用の振込み用紙は、会報「山」10月号に同封いたします。

久しぶりに皆様にお会いできることを楽しみにしております。ぜひご参加ください。

開催日時 令和4年12月3日(土)
 受付は12時30分ごろを予定しています。

会場 京王プラザホテル(東京・新宿)
 総務委員会委員長・永田弘太郎

た。

現在、両校山岳部のOB会として「北山の会」を結成し、小屋の維持・管理に努めています。このほど、その80年の歩みを展示紹介いたします。

内容 北山荘の前身・北山ヒュッテの年譜、北山荘研究報告、京都を彩る建物や庭園制度、北山荘紹介書籍

主催 北山の会(京都一中・鴨沂高校・洛北高校山岳部OBの会)

会期 11月1日(火)～6日(日) 午前11時から午後6時まで

会場 カルチャーガーデン(京都市左京区吉田中大路町17-1 鈴木文化会館1F)

TEL 075-761-5537

問合せ先 kitayamanoka1919

@eto.eonet.ne.jp (北山の会・会長 黒田俊郎)

◆川井靖元写真展

—世界の名峰12座をめぐる—

日時 9月6日(火)～11月23日(火)

9時30分～16時30分 木曜休館

場所 谷川岳山岳資料館

TEL 0278-726446

(谷川岳ロープウェイ駐車場上、徒歩2分)

後援 群馬県みなかみ町

訂正

会報8月号ページ1段目、アルパインフォトクラブ主催・第28回山岳写真展「心に映る山々」高尾巡回展の「会期10月8日(土)～10日(月)」は「会期10月8日(土)～12日(水)」の誤りです。訂正させていただきます、お詫び申し上げます。

《会報編集委員会》



◆編集後記

●6月下旬は、上州の嵩山に登ってきました。小粒だが鎖場の連続する、面白い山です。ただ「嵩」を「タケ」とは読みにくいですね。字義が「たかい」ですから、そこらきたのでしよう。そういえば、松本清張の名作『砂の器』にキーワードとして登場する奥出雲、木次線の「亀嵩」駅も「カメダケ」だったことを思い出しました。

●出版社での現役時代、ひとりの読者から電話がありました。「この春、タチヤマのユウザンからワカレヤマに行きたいのですが、雪の状態は……」とのこと。立山三山の2峰、雄山と別山のことだと分かりました。この方の伝でいくと、内蔵助平も「ナイゾウノスケベエ」となるのでしょうか。山名の読み方は難しいですね。(節田重節)

日本山岳会会報 山 928号

2022年(令和4年)9月20日発行
 発行所 公益社団法人日本山岳会
 〒102-0081
 東京都千代田区四番町5-4
 サンビューハイツ四番町
 TEL 東京(03)3261-4433
 FAX 東京(03)3261-4441
 発行者 日本山岳会会長 古野 淳
 編集人 節田重節
 Eメール: jac-kaiho@jac.or.jp
 印刷 株式会社 双陽社